WS3-3

睡眠医療における遠隔医療

○吉嶺　裕之
社会医療法人春回会井上病院

日本の睡眠医療の問題点として、厳しい医療費財源、専門医療を行う医師や検査技師の偏在による地域的医療格差、未診断及び未治療の睡眠呼吸障害（SDB）患者の存在などが挙げられる。これらの解決策として、効率の良い医療受診システム、離島や僻地など医療過疎地域に住んでいる方々を含む患者の睡眠医療専門医療機関へのアクセス向上、潜在的な睡眠呼吸障害患者の掘り起こしが求められている。睡眠医療の検査や治療においては主としてデジタルデータおよびデジタル機器のマネージメントが中心となるが、ICTを用いた遠隔モニタリングや遠隔診療と対面診療を適切に組み合わせた医療の提供が鍵になると思われる。

当施設では積極的にクラウド型CPAPモニタリングを用いている。新規CPAP治療を導入するSDB患者に対して、CPAP導入直後からきめ細かいモニタリングとアドバイスを行っており、早期のトラブルシューティングを図り、CPAPアドヒアランス向上を目指している。継続通院中のCPAP治療患者においては、患者、医療機関及びCPAP関連企業の負担軽減を図っている。

また、複数の医療機関が一人の患者の情報を共有可能なCPAPモニタリングシステムとウェブ会議システムを組み合わせ、睡眠検査結果やCPAPメモリーデータを用いた治療について専門医療を患者とかかりつけ医に提供する形の遠隔診療（DtoD／P）を試みている。

今回は、長崎地区および海外の医療機関間の遠隔診療の取り組みなどについて提示し、ICTを用いた睡眠医療展開の可能性や問題点についてディスカッションしたい。